

# 安全研会報

令和7年2月

全国学校安全教育研究会 会報 NO.14  
東京都学校安全教育研究会 会報 NO.49

発行 全国学校安全教育研究会  
会長 高汐 康浩



## 『実効的な安全教育』の推進を

全国学校安全教育研究会会長  
東京都府中市立府中第八中学校長 高汐 康浩

勤務校での2学期のある日の出来事をお話しします。生徒指導を担当する教員が校長室に来て、「校長先生、3年生の保健委員会の生徒たちが無断で3年生のフロアの廊下の中央に線を引いてしまいました。すぐに消させます。」と言ったのです。私はその教員に、生徒たちが線を引くまでの経緯を丁寧に確認しました。すると、次のようなことが分かりました。

- ・保健委員会では、秋雨の頃に廊下での衝突による怪我が増えていることを問題にしていた。日頃の廊下の通行で、ぶつかりそうになるなどの支障があることが多かった。
- ・保健委員として学校の安全に積極的に関わりたいと思っていた。
- ・これまでは雨の日の過ごし方や衝突事故、転倒事故防止のポスターで呼びかけを行っていたが事故の件数を0（ゼロ）にはできなかった。
- ・そこで、小学校の廊下などにある通行を区分する線を引いてみようと考えた。
- ・まさに秋雨のときなので、委員会を開催したり先生に了解を得たりすることより、実行をすることを再優先に考えて3年生の廊下に線を引いた。

私は、生徒たちがこれまでの学習で鍛えられた見方・考え方をフルに働かせた行動であることを高く評価し大いに誉めながら、行動を起こすための手続きなどについて指導すればよいことを教員に助言しました。学校安全は、安全教育と安全管理が両輪となりそれを結び付ける車軸に相当する組織活動があって車輪である学校安全が正常に動くことと捉えています。この事例はまさに車輪が確実に動いている事例であると考えます。保健委員会という生徒の組織活動が実効的に働いています。

当会においては、『自他の生命を尊重し、安全のための行動ができる幼児・児童・生徒の育成』を主題に研究活動を推進してきました。生活のさまざまな危険を予測し、自ら回避できる能力を育成しつつ危険場面に遭遇してしまったときの適切な対応力、実践力を培うこと、そして、生活する環境全体の安全で安心な社会づくりに進んで参加し貢献できるような資質・能力を育成することを目指しています。学習指導要領総則の「活用」と「発揮」をキーワードとして、児童生徒等が、課題解決のために各教科等で鍛えられた見方・考え方が個別の学習場面でインタラクティブに働かせることができる工夫を各教科等の授業や安全教育の取組に仕掛けることにより、総合的で汎用的な力を実生活や実社会で活用できるようにすること、つまり『実効的な安全教育』の実施が最も重要であると捉えています。



## 「災害、事故等の危険を正しく理解し、正しく恐れる」ことの大切さを学ぶ

東京都学校安全教育研究会会長  
東京都世田谷区立駒繫小学校長 佐々木 克二

東京都学校安全教育研究会は、昭和51年発足以来、これまで49年間にわたり、学校安全教育の充実と発展を目指し、着実な研究と実践を積み重ね、大きな成果を上げて今日に至っております。現在は、全国学校安全教育研究会と一体となり、「自他の生命を尊重し、安全のための行動ができる幼児・児童・生徒の育成」―危険を予測し、自ら回避できる能力を育成するために―を研究のテーマに位置付け、実践的・実効的な安全教育と安全管理の在り方に関する研究を推進しております。

さて、令和6年8月8日、宮崎県日南市で最大震度6弱（M7.0）の地震が発生しました。この地震で気象庁は、初の「南海トラフ地震臨時情報（巨大地震注意）」を発表し、今後1週間は巨大地震に注意するよう呼びかけました。

後日、某全国紙で『南海トラフ地震の臨時情報の発表を受けて、「防災への意識は、高まったか』という全国での世論調査が実施されました。その結果は、「高まった」の回答は、51%、「それほどでも」が47%でした。また、『災害への自身の備えがどの程度できているか』という問いには「できている」は、38%（「かなり5%」「ある程度33%」）、「できていない」は、60%（「あまり41%」「ほとんど19%」）でした。この数値をどのように捉えるかは、各々のおかれている立場によっても異なることと思います。

私の立場で考えると、学校教育、学校安全教育の中で果たさなければならない役割はまだまだ果たせているとは言えず、今後も広く日本全国に学校安全教育の重要性を発信し、更なる学校安全教育を充実させていかなければならないと痛感いたしました。

学校安全教育において、本会研究テーマに通じる「災害、事故等の危険を正しく理解し、正しく恐れる」ことの大切さを学ぶことの重要性を改めて考える機会となりました。

## 第48回全国・東京都学校安全教育研究大会にむけて

[令和7年2月14日（金）会場：東京都北区立堀船小学校]

東京都北区立堀船小学校長 松本 麻巳

全国・東京都学校安全教育研究会の研究発表校及び東京都北区教育委員会研究協力校として令和5年度から2年間、安全教育の研究を進めてきました。令和4年3月に策定された「第3次学校安全の推進に関する計画」に示されている5つの推進方策に基づき、研究主題を「自他の生命を尊重し、安全のための行動ができる児童の育成 ー危険を予測し、自ら回避できる能力を育成するためにー」として取り組んでいます。本校の取組内容について、一部をご紹介します。

### 【学校安全に関する組織的な取組の推進】

- 学校経営における学校安全の位置づけを明確にし、学校を取り巻く地域の自然環境等の様々なリスクを想定した危機管理マニュアルの作成と見直しを行う。本校の通学区域では、河川の氾濫による洪水のリスクが高いことを確認した。
- 学校安全に関する研修・訓練の充実を図り、教員の学修を充実させた。専門家の招聘や被災地視察研修の報告会等を多数実施した。



### 【家庭、地域、関係機関等との連携・協働による学校安全の推進】

- 「親子で学ぼう！堀船の防災！」をテーマとした講演会を実施した。児童、教職員、保護者、学校評議員等を対象に、北区危機管理室防災・危機管理課の協力を得て、専門家や連合町会長から具体的な水害対策や備蓄品、資機材の取り扱いについてのお話を伺った。



### 【学校における安全教育の充実】

- 児童が自ら危険を予測し、回避する能力を育成する安全教育を充実させるために、指導内容・方法を工夫・改善した。遠足・集団宿泊的行事での体験を活かし、地域によって起こる災害が違うことを学んで、それぞれの避難の仕方について話し合って対策を考えた。
- ネット上の有害情報対策(SNSに起因する被害)性犯罪・性暴力対策(生命(いのち)の安全教育)など、現代的課題に関する内容の授業を年間指導計画に位置づけ推進した。
- 生活指導部と研究部が連携して「避難訓練の改善」を行った。災害時に起こりうる様々な状況(校舎や非構造部材の破損、児童のケガや体調不良、安否不明、余震発生、管理職不在など)を設定して訓練を行い、事後に児童と共に考えながら振り返りを実施した。



### 【学校における安全管理の取組の充実】

- 「安全点検の改善」を重点的に実施した。教員による定期点検は担当場所を固定せず、毎月、各項目を別の視点で点検できるように工夫した。
- ウェブサイト「文部科学省×学校安全」の「安全点検方法等の解説動画シリーズ」を活用し、安全点検の質的向上に繋げた。

### 【学校安全の推進方策に関する横断的な事項等】

- 「学校安全の日」を毎月設定した。毎月同日に安全指導と安全点検を実施し、児童も教職員も共に、改めて安全意識を高める機会とした。

## 千葉県教育研究会 安全教育部会

千葉市立西の谷小学校 教諭 月野木 諭

当部会では、児童・生徒の危険予測能力や危険回避能力を育てるために、実践的な安全教育の推進に力を入れている。

### 1 部会のテーマ

「学校安全教育の充実と実践の在り方」

### 2 具体的な取組

各施設や公共機関と連携し、「安全」の考え方や取組について学ぶ研修をした。今年度は、最新の安全設備を取り入れている施設に目を向け、視察研修を行なった。また、教育講演会においては、東日本大震災で被災された方を講師として招き、当時の状況を振り返り、今後の防災教育に生かしていくことについて話をいただいた。

#### ①視察研修

ア 千葉県総合救急災害医療センター 6月18日

イ ALSOK 東日本ガードセンター 8月21日

#### ②教育講演会

元釜石東中学校 教諭 糸日谷美奈子先生による講演会 10月22日

#### ③その他の研修会

ア 学校の安全・危機管理セミナー 7月29日

イ 令和6年度 全国学校保健・安全研究大会 オンデマンド参加

※ 内容の詳細については、「千葉県教育研究会安全教育部会」のウェブサイトをご覧ください。

## 東日本大震災津波の教訓を未来へつなぐ

岩手県立図書館 館長 森本 晋也

2011年3月11日に発生した東日本大震災津波（以下、震災）から間もなく14年を迎えます。震災を知らない世代が増えてきており、被災地の学校でも震災について学んでいく必要があります。そのような状況において、2023年11月3日、岩手県立図書館に震災・防災の学び合いスペース「I-ルーム」を開設しました。「I-ルーム」という名称は、児童生徒やグループによる学び合い、様々な資料に出会い、愛と希望に満ちた岩手県（Iwate Prefecture）という様々な「I」から名付けています。「I-ルーム」は、児童生徒の復興や防災の探究的な学びの支援をはじめ、自然災害や防災、安全を総合的に学ぶ拠点、県内の震災関連施設のサテライト的機能という主に3つの役割があります。

例えば、図書館員が「避難と高齢者・障がい者」や「災害ボランティア」、「災害後の健康被害」など生徒の課題に合わせた資料を提供し、さらにレファレンス機能を活用して調べ方のアドバイスを行い、探究的な学びの支援を行っています。また、大雨・台風の備えに関するワークショップや高校生が講師となった防災ボトルづくりセミナーの開催、震災や防災の関連図書のセット貸出、他県からのオンラインでの調査学習への対応なども行っています。「I-ルーム」を拠点に、震災の教訓を未来に伝えるとともに、県民の災害への備えの意識の向上に向けて様々な取組を進めています。





## 第49回全国・東京都学校安全教育研究大会

研究主題 自他の生命を尊重し、安全のための行動ができる児童の育成  
 -危険を予測し、自ら回避できる能力を育成するために-

東京都調布市立富士見台小学校長 小俣 弘子

令和6・7年度調布市研究推進校として、学校の特色や地域の環境、児童の実態に応じた学習課題を設定し、自ら考え判断し行動できる児童の育成を目指して研究を進めています。多くの方々にご参会いただき、ご指導、ご助言を賜りますよう、お願いいたします。

### 〔第49回全国学校安全教育研究大会・東京都学校安全教育研究大会〕

日時 令和8年2月6日(金)開催

場所 東京都調布市立富士見台小学校

## 令和6年度 学校安全教育研究会 組織

### 〈全国学校安全教育研究会〉

役職	氏名	所属	役職	氏名	所属
会長	高汐 康浩	東京都府中市立府中第八中学校	事務局	津布久郁夫	元 全国学校安全教育研究会事務局長
副会長	伊藤 進	東京都葛飾区立花の木小学校	事務局	山田 誠一	元 東京都学校安全教育研究会副会長
副会長	角田 成隆	東京都足立区立千寿本町小学校	事務局	山田 明	元 東京都学校安全教育研究会副会長
事務局長	伊藤 淳	東京都府中市立府中第五中学校	事務局	原野 隆	元 東京都学校安全教育研究会研究部長
事務局	木間 東平	前 全国学校安全教育研究会会長	会計部長	吉羽 優子	東京都柳町こどもの森文京区立柳町幼稚園
事務局	立石 晃子	東京都荒川区立南千住第二幼稚園	会計副部長	小俣 弘子	東京都調布市立富士見台小学校
事務局	本多 亨	千葉県千葉市立千城台南中学校	監査	村田有美子	東京都江東区教育委員会事務局

### 〈東京都学校安全教育研究会〉

役職	氏名	所属	役職	氏名	所属
会長	佐々木克二	世田谷区立駒繫小学校	研究部員	小野 正門	大田区立矢口東小学校
副会長	坂井由利子	国分寺市立第十小学校	研究部員	門野 幸一	町田市立大蔵小学校
副会長	原田 英徳	葛飾区立西小菅小学校	広報部長	三澤 亘潤	西東京市立保谷第二小学校
事務局長	藤咲 孝臣	府中市立本宿小学校	広報副部長	齋藤 信之	西東京市立東伏見小学校
事務局員	西原 洋一	大田区立矢口東小学校	広報部員	中野 健	国分寺市立第十小学校
研究部長	松本 麻巳	北区立堀船小学校	会計部長	小俣 弘子	調布市立富士見台小学校
研究副部長	渡邊 利枝	杉並区立東田中学校	会計副部長	南 美貴	新宿区立西新宿こども園
研究部員	中澤 郁実	杉並区立浜田山小学校	会計部員	千葉 千里	府中市立府中第二中学校
研究部員	清水 洋一	八王子市立第一中学校	会計部員	小川 雄也	武蔵野市立第四中学校
研究部員	橋詰 貴	東村山市立東村山第一中学校	監査	村田有美子	江東区教育委員会事務局

特別顧問 戸田 芳雄 (元文部科学省教科調査官)  
 長岡 佳孝 (元文部科学省安全教育調査官)  
 吉門 直子 (元文部科学省安全教育調査官)

顧問 岩切 玲子 池田 實 小林 元子 矢萩 惠一 矢崎 良明  
 澤野 明夫 井口 信二 永山 満義 平松 有理子 木間 東平